

氏名(本籍)	高岡英氣(千葉県)
学位の種類	博士(体育科学)
学位記番号	博乙第2603号
学位授与年月日	平成24年5月31日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	プロスポーツ概念の原理論的研究
主査	筑波大学教授 博士(文学) 佐藤 臣彦
副査	筑波大学教授 博士(学術) 藤堂 良明
副査	筑波大学教授 教育学博士 菊 幸一
副査	筑波大学准教授 博士(経済学) 黒川 義教

## 論文の内容の要旨

### (研究の目的と方法)

従来の体育学分野では、「プロスポーツ」研究が「アマチュアリズム」からの批判もあって等閑に付されてきた。しかし、現代社会においては、プロスポーツは高度な技術の開発やその大衆への普及を担うという意味で、スポーツ文化の発展にとって欠かせない存在となっている。こうした現代社会におけるその存在意義の高まりとは裏腹に、「プロスポーツ」に関する概念研究は、大きく立ち後れているのが現状である。こうした問題意識から、本研究では、さまざまな文脈において多義化している「プロスポーツ」を統一するような「概念の同一的で不変な意味」を明らかにするため、疑い得ない前提から出発し、演繹的な推論を展開していく「原理論的方法」を採用し、「プロスポーツ」の概念的検討を試みている。そして、個々の事象に共通する概念の総体的な構成を明らかにするため、関数式によるプロスポーツの定義をもとに、個別事象の詳細な分析を行なうという手順をとっている。こうした分析を通して「プロスポーツ」がいかなる条件下において成立し、どのような存立構造を有するものなのかを明らかにしようとしている。

### (論文構成と概要)

本論は二部構成になっている。第1部:「プロスポーツ概念の検討」では、「プロスポーツ」概念の基底詞である「スポーツ」概念の考察から出立し、第1章:文化としてのスポーツ(①基底詞としての「スポーツ」、②スポーツと遊戯、③スポーツ概念の二つの位相、④スポーツ構造)、第2章:職業としてのスポーツ(①プロフェッショナル概念の予備的考察、②プロスポーツへの経済的見地、③プロスポーツへの技術的見地、④プロスポーツへの倫理的見地)、第3章:産業としてのスポーツ(①プロスポーツの産業分類上の位置づけ、②ゲームの生産局面、③ゲームの商品化と交換局面)、第4章:プロスポーツの成立条件(①文化産業としてのプロスポーツ、②スポーツ文化の大衆化、③スポーツのメディア化)、といった全4章で構成されており、「スポーツ文化論」「職業社会学」「文化経済学」などの知見を援用しつつ、それが特殊な社会関係において成立する関係概念であるとして、 $PS=f(S, F, L, C, O, B | P)$ (PS:プロスポーツ、S:スポーツ構造、F:スポーツ施設、L:PS従事者、C:出資者、O:PS組織、B:顧客、P:目的・目標、|:条件)という関数式を演繹的に導いたうえで、プロスポーツが成立するには、①スポーツ文化の社会的浸透、②スポーツのメディア

化が必要条件になる、としている。

第2部：プロスポーツ概念の特殊相では、プロスポーツ概念の特殊相を明らかにするため、プロスポーツ産業を「リーグ型—ツアー型」「開放的・流動的—閉鎖的・固定的」という二軸により、①クローズリーグ型、②オープンリーグ型、③流動ツアー型、④固定ツアー型に類型化し、それぞれの類型における典型的事例、すなわち、第5章：MLB（アメリカ大リーグ：①MLBの歴史、②MLBの関係構造、③MLBのバランス・メカニズム）、第6章：プレミアリーグ（①プレミアリーグの歴史、②プレミアリーグの関係構造、③プレミアリーグのバランス・メカニズム）、第7章：PGA ツアー（①プロゴルフの歴史、②PGA ツアーの関係構造、③PGA ツアーのバランス・メカニズム）、第8章：F1（①F1の歴史、②F1の関係構造、③F1のバランス・メカニズム）を取り上げ、それぞれ、「歴史」「ステークホルダーの関係構造」「収支のバランス・メカニズム」から考察している。

その結果、「スポーツのメディア化」という歴史的・社会的条件の下に、実体としてのスポーツ構造とそれを取り巻く多様な要素との間で、「スポーツの商品化」という目的に向かって収斂していく関係性の総体が、他の産業では否定的に捉えられている「独占化」が許容され、さまざまなコストの「外部化」が押し進められているという特殊なバランス・メカニズムをとることによってその産業的展開が維持されていると結論づけている。

## 審査の結果の要旨

本研究は、スポーツという文化を考えると、他の芸術分野と同様、「プロ」の存在を看過できないという立場から、「プロスポーツ」がいかなる条件下において成立し、どのような存立構造を有するものなのかを特徴的な事例を分析対象としつつ明らかにした。方法的には、まず、第1部において、「プロスポーツ概念」について「スポーツ文化論」「職業社会学」「文化経済学」の知見を援用しつつ、それが特殊な社会関係において成立する関係概念であるとして、 $PS=f(S, F, L, C, O, B | P)$ という関数式を演繹的に導いているが、こうしたアプローチは、従来にない独創的なものであると言える。それによって、プロスポーツを構成するさまざまな諸要素が明らかになるとともに、プロスポーツが成立する条件についても、①スポーツ文化の社会的浸透、②スポーツのメディア化の2要件を上げていることは妥当な見解であると言える。また、第2部では、世界的に普及しているプロスポーツをカテゴリーに基づいて類型化したうえで、それぞれにおける典型例の分析を通して、プロスポーツが存立するための条件として、「独占化」および「外部化」という契機を導いているが、こうした結論についても妥当であるとして評価された。

平成24年3月21日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。なお、学力の確認は、人間総合科学研究科学学位論文審査等実施細則第11条を適用し免除とした。

よって、著者は博士（体育科学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。